

所属・氏名（ 健康科学部 心理学科 氏名：中村 志津香 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(著書) 『認知行動療法辞典』4 章 ア セスメント技法「産業・労働分 野のアセスメント」	共著	2019.8	丸善出版株式会社	産業・労働分野において、労働者のメンタルヘルス不調をアセスメントするための方法について、様々な理論やモデルについてまとめ、辞典の項目として執筆を行った。 4 章 アセスメント技法「産業・労働分野のアセスメント」を担当
2	(学術論文) 小学校教員における職務ストレス レッサー，理想像の明確さおよび ストレス反応の関連《筆頭論文》	共著	2017.11	産業ストレス研究 第 24 巻 4 号	教員がもつ理想像の明確さはストレス反応から身を守る面があると言われ，小学校初任者教員において調査を行った。その結果，理想像が明確であるとき，児童対応・授業ストレスラーが高ければ疲労感が高くなること，保護者対応ストレスラーが低いほどイライラ感が高くなることが明らかになった。 担当部分：データ分析、論文全体の原稿執筆 著者：中村志津香・小山田暖果・大塚泰正 (pp387-399)
3	(学術論文) Intervention for regulating sleep-wake rhythms to prevent sleepiness in Japanese train drivers. 《筆頭 論文》	共著	2018.5	Sleep and Biological Rhythm Vol.16, Issue.3	鉄道運転士が日中に眠気を感じることを予防するため，生活リズムを整えるための介入を行い，その効果について検討した。睡眠教育を行うことと，“生活リズム健康法”から 3 つの項目を選択し，取り組んだ結果，介入前に比べて介入後では日中の眠気が減少したことが明らかになった。 担当部分：データ分析、論文全体の原稿執筆 著者：Nakamura, S., Fukuma, K., Ueda, M ., 他 2 名. (pp351-356)
4	(学術論文) 駅構内で歩きスマホをしている 最中の人・していない人への 調査に基づく行動形態の比較 ：歩きスマホの防止策考 案に向けて	共著	2020.5	人間工学 第 56 巻 3 号	駅構内における歩きスマホの実態を把握し，効果的な防止策に繋がる特徴を明らかにすることを目的として調査を行った。その結果，若年者の歩きスマホ率が高いこと，降車時にスマホの操作を行っているか否かがその後の歩きスマホ行動に影響していることが示された。 担当部分：調査の実施、原稿の改稿 著者：武内寛子・上田真由子・中村志津香、他 2 名 (pp108-118)
5	(学術論文) 災害発生時の鉄道利用者の 交通情報取得行動：大阪モノ レール利用者を対象とした大 阪府北部地震に関する調査	共著	2020.	産業・組織心理学研究 第 35 巻 第 2 号掲載 予定	鉄道における災害時や異常時の適切な交通情報提供方法を検討するため、大阪北部地震の発生時に大阪モノレールの駅や車内の利用者を対象に調査を実施した。事業者からの公的情報が得られる放送や案内が期待・利用され、有用であると評価された。また、有用な公的情報は利用者の満足を高め、駅舎への滞留時間を軽減させることが明らかになった。 担当部分：研究計画・現行の一部作成 著者：高原龍二・上田真由子・中村志津香